

九州大学の改革の考え方

A 社会の潮流

- 1
 - Globalization
先進国としての国際的責任
Asiaとの分業の深化と日本の役割
日本の研究・開発の飛躍的発展への期待
- 2
 - 高度知識社会・情報社会
産業構造のソフト化・情報化
職業構造の管理・専門・技術職業へのシフト
- 3
 - Quality of Life の時代
生活大国、心の豊かさ
市民の学術・文化への強いニーズ
高齢化社会と医療・福祉への強いニーズ

B 基幹大学への要請

- 1
 - 国際的に一線級の学術・研究への期待
これを担う次代の研究者の養成
- 2
 - 国際的な学術研究交流の促進
Asia諸国の人材養成と科学技術移転
- 3
 - 管理・専門・技術職業を担う高度かつ専門的職業人の養成
社会人教育の期待
- 4
 - 市民への学術・研究成果の還元・普及
市民の再学習意欲への対応
医療・福祉を担う人材養成の拡充

C 改革のねらい

- 1
 - 国際的・先端的学術研究の継続的発信
- 2
 - 国際的・先端的学術研究を担う人材養成
- 3
 - 管理・専門・技術等高度職業人の養成
- 4
 - 留学生の急増に対応した教育システム確立
- 5
 - 企業・市民との研究協力、交流の強化

D-1 改革のコンセプト

時代の変化に応じて自律的に変革し、活力を維持し続ける開かれた「研究大学」の構築

D-2 改革の内容

博士・修士・学士課程の系統性の実現
 * 学士・修士一貫教育と修士・博士一貫教育
 教育組織と研究組織の分離と管理運営システム
 * 研究科・系教育と研究院 COE 構築のための部門間の柔軟な協力システム
 * 教育研究プログラム
 * 研究拠点形成プロジェクト
 柔軟で開かれた系の教育システム
 * コース制とカリキュラム制
 * ハウス構想、自由学際系
 研究科・学部等既存組織の再編成と大学院重点化
 * 研究科と系の再編
 研究所等の改革
 社会との連携強化
 * 共同研究コンソーシアム
 * 社会人教育のシステム化
 国際連携の強化
 * 国際学術センター
 * 留学生教育のシステム化

D-3 改革の目標

COE としての九州大学の構築
 研究・教育の飛躍的向上
 全学一括大学院重点化
 研究所の全国共同利用・中核拠点化

E 解決すべき課題

- 1 研究・教育組織の個別性・固定性
 学部・学科・講座等組織の維持・拡大の論理が優先
 先端的・学際的・総合的研究・教育の要請に柔軟に対応できない
 人事の流動性の低さ 教官の“甘えの構造”に陥りやすい 研究・教育活力の停滞の危険性
- 2 不十分な大学院教育体制
 組織的な教育体制未確立
 博士課程・修士課程への低進学率・博士号低授与率
 研究・教育条件の不備
 院生の生活の不安定
 不十分な留学生受入体制
- 3 学部教育の抱える課題
 学習意欲の低下・キャンパスからの離脱、高留年率
 大学教育への不適応現象
 早い段階での専門選択と専門変更の困難性
 学習内容の細分化と総合的知識修得の弱さ
 学習内容の高度化と修得レベルのミスマッチ
- 4 社会との協力体制未整備
 不十分な産学官協力・市民社会への成果の還元
 不十分な社会人受入体制